

● 「モノづくり」の核心



リンナイ株式会社

社長 内藤 弘康

十数年のトンネルを抜けて、日本経済にもやっと光が見えて来ました。高度成長の再来は無理としても、持続的で緩やかな経済成長をなんとか期待したいところです。

日本経済は長い試練に立たされましたが、経済力は依然として強力です。GDP でみると、世界一の経済大国はご存知アメリカ合衆国で、11.7兆米ドル（以下同）の規模があり、圧倒的です。オールアジアが束になってかかっても敵はいません。2位は日本で、4.6兆ドル。これもなかなかのものです。3位のドイツ（2.7兆ドル）、4位のイギリス（2.1兆ドル）を合わせたくらいの規模がありますからたいしたもの。ちなみに中国は1.6兆ドル、韓国は0.67兆ドルですからまだまだ日本とは差があります。

1人あたりGDPではどうでしょう？但し人口1千万人以上の国を対象とします。1位はアメリカで3.98万ドル。人口3億人弱を擁してのこの数字は“凄い”の一語です。2位は日本で3.62万ドル、3位はイギリスの3.60万ドル、以下オランダ（3.55万ドル）、フランス（3.34万ドル）、ドイツ（3.29万ドル）と続きます。イタリアは、2.90万ドルです。アジアでは、韓国がやっと1.4万ドルで、中国は0.13万ドルです。〔以上のデータは全て、（財）世界の動き社「世界の国一覧表」2006年版から〕

このように、数字の上での比較となりますが、バブルがはじけて、

暗いトンネルを抜け出したばかりの現在でさえ、これだけの経済力が日本にはあるわけです。

もちろんこの原動力となったのが、「モノづくり」であることは、いうまでもありません。明治の開国以来、日本は欧米に追いつけ追い越せと、世界大恐慌、第二次世界大戦、オイルショック、円高、バブルの崩壊に歯を喰いしばって耐えてきました。再スタートを切ろうとしている現在でさえ、“ヨーロッパ列強”の最上位と同レベルにあることを有難いと思わなければ、先人の努力に申し訳が立ちません。

さらに、世界に冠たる日本の「モノづくり」が、島国日本の特異な精神環境にも根ざしていたことにも我々は気付くべきです。時間を守る、ルールを守る、キレイ好き、礼儀正しい、責任感がある、勤勉で忍耐強い、集団での協調性がある。これらは、我々の当たり前と思っている行動の中に無意識に組み込まれていますが、これこそ他の国が欲しても手に入らない島国日本の「宝」であり、高度な「モノづくり」を支えてきた“核心”であります。

最近、特に若者に、この「宝」が失われつつあるのではないかと心配になりますが、技術講習などでも前途ある技術者にその“核心”を教え、その重要性を“気付かせる”ことが大事ではないでしょうか？